新 刊 Book reviews

□日本図書コード管理センターマネジメント委員会ワーキンググループ：**ISBN コード／日本図書コード／書籍 JAN コード利用の手引き 2010 年版** A4. 63 pp. 2010. JPO 日本出版インフラセンター日本図書コード管理センター．￥2,000 + 税. ISBN 978-4-949999-12-0 C3000 ¥2000E.

先頭から“：”の前までが著者名．“ISBN”から“版”までが表題．閲覧までに，たいへん手数のかかった本である．お断りしておくが，本書は閲覧はできるが入手はできない．私の文献紹介では，国際図書コード (ISBN) というものの意味がわからず，数字列は間違い易いということもあり，はじめのうち省いていた．ところが「ISBN を表示せよ」という request が多いというので，いちいち表示することにしたのだが，構成文字の意味が分からないままでは面白くないので，解説書を探すことにした．広く使われるコードなのだから，解説書が無ければ役に立たないはずである．丸の内の丸善で「ISBN の解説書を...」と言ったら，ネット検索をしたあげく「そういう本はない．日本図書コード管理センターのホームページに当たってみろ」と言う返事で驚いた．世界はともかく，日本のすべての出版物につけるためのコード体系の解説が，印刷物になっていないとは考えられない．次に八重洲ブックセンターと新宿紀伊国屋で同じ質問をしたら，やはり同じ返事だったのだが，八重洲で応対した女性職員が「皆が知っていることなので，表題になくても，どこかの本の中にあるだろうから，探してみる」というので，10分ほど待った．彼女は，並んでいる本を片端からパラパラめくったあげく，「こんなものがあった」と見せけてくれた．エディタースクールの教科書（これは別途紹介する）の欄外に，コードの字列の説明があるだけだった．これでは誰がどういう手続きで，どんなコードを与えるのか，わからない．次に府中市立中央図書館へ行き，同じ質問をしたら，さすがは図書館で，やっとのことで本書を手にすることができた．それから書店に行って注文したのだが，「先方が夏休みらしくて，連絡がとれない．しばらく待ってくれ」ということになった．なかなか手数のかかる本である．やがて夏休みが終わったらしく，書店から電話があった．「一般への販売はしていない」のだそうだ！

命名規約では，電子出版物としては ISBN（国際標準図書番号）または ISSN（国際標準逐次刊行物番号）コードを持つもののみが有効出版物と認められることになった．だからこのコードについては，国際的に広く理解が行き届いている必要があるし，審議に関わった国際命名委員会や邦訳委員会委員はもとより，審議結果を受け入れた会員諸氏は，ご自分を含めて「理解が行き届いている」と思ったに違いない．ところがその元締めであるコードセンターが，周知について消極的極まる態度なのは，訳がわからない．センターに直接行けば，解説書が手に入るだろうと，新宿区袋町の日本出版インフラセンターへ行ってみた．日本図書コード管理センター長の大沼氏が対応してくれた．「このコードは，発行者が申請した特定の本に対してのみ与えるもので，その内容を広く一般に知ってもらう必要はない．だからコードの利用を申し込んだ者にしか，その作製法は教えない．申し込むための手続きを知りたければ，当センターホームページを見ればよい．これについてはプリントもあるので，さしあげる」と，二種類 9 頁ほどのプリントをいただいた．

ISBN は，管理センターが与えた発行者記号に，発行者が書名記号を付け加え，一定の手続きに従ってチェック数字を附加したもので，流通市場で出版物を特定する役割を持つ．出版物の内容を変更した場合には，些細な訂正以外は，現在の番号を取り消して，新しい番号を申請し直さねばならない．「些細な」というのはいわゆる誤植のたぐいで，文字列の入れ替えや頁の挿入はもっての外，ということを意味する．これは我々のような，過去の文献を引用する必要のある研究分野では，よほど用心する必要がある．何の気なしに文献を引用しても，表題は同じでも内容が異なる，あるいは引用箇所に見つからない，ということがあり得るからである．その前に，同じ題名の本でも，版が異なれば書名記号では関連付けされているとは限らないようだ．コード登録の料金や，ルールに違反したときのペナルティもあるらしい．このあたりは命名関係ばかりではなく，知見を発表・改訂しようとする当事者が，慎重に考慮する必要がありそうだ．私の取り越し苦労であればよいが....「店頭には出ていないが，図書館でなら閲覧できる」というものでもない．大沼氏は「一般には出していないのに，どうして図書館に入って

いたのだろう」と首をひねっていたので，どこの図書館でも所蔵しているという代物ではなさそうである．

なお，ISBN（国際標準図書番号）というのは，厳密には先頭から “C” の文字の手前までで，C 以降 E 迄は日本だけに通用する日本図書コードと呼ばれるものだが，日本では両者一続きのものを，習慣的に国際図書番号と呼んでいるとのことである．￥に続く数字は税抜き価格で，売価そのものではない．最後の E は，コードの末尾を示す記号である．

というわけで，役に立たない紹介文を書くことになった． （金井弘夫 H. KANAI）

□日本エディタースクール：**新編校正技術** B5. 2012. 日本エディタースクール出版部.
・講座テキスト版① pp. 1–158. ￥1,500 + 税. ISBN 978-4-88888-398-6 C2000 ￥1500E.
・講座テキスト版② pp. 161–262. ￥1,100 + 税. ISBN 978-4-88888-399-3 C2000 ￥1100E.
・講座テキスト版③ pp. 265–406. ￥1,300 + 税. ISBN 978-4-88888-400-6 C2000 ￥1300E.
・講座テキスト版④ pp. 409–592. ￥1,600 + 税. ISBN 978-4-88888-401-3 C2000 ￥1600E.

プロの編集者養成のための教科書だから，内容は詳細で，いわゆる「赤字」の部分は，実際に赤で示してある．①②③は右綴じで，一般論および縦書き文用，④は左綴じで横書き文用（欧文も）である．頁ナンバーが繋がっていないのは，目次などの頁にローマ数字があるためである．本誌の読者は多少とも編集や校正に関わっているだろうから，今更こういう指南書は不要かもしれないが，まとまったセットとして書棚に置けば，参考書として有用だろう．頁の下（④では右）1/3 は参考記事で，次回の学術用語集編纂に役立ちそうな情報を，たくさん拾うことができる．

（金井弘夫 H. KANAI）

□小林 敏：**デジタル原稿の編集技能** B5. 110 pp. 2005. 日本エディタースクール．￥1,200 + 税. ISBN 4-88888-355-6 C2000 ￥1200E.

既に紹介した「新編校正技術」と共に手に入れたもの．「Word を使った原稿編集のノウハウ」の副題がある．私が知らない領域なので，表題の紹介のみにとどめる． （金井弘夫 H. KANAI）

□秋山 実：**マイクロスコープ (Microscope). 浜野コレクションに見る顕微鏡の歩み** A4. 128 pp. 2012. オーム社． ￥4,500 + 税．ISBN 978-4-274-21283-3.

理系の研究者で，浜野顕微鏡店の名を知らない人は珍しいと言ってよかろう．1923 年から顕微鏡販売業務に関わっていた浜野太郎氏が，1945 年に独立，1980 年に長男の浜野一郎氏が店を引き継いで，大学をはじめとする教育機関や研究所の業務，研究，教育に応じて，わが国唯一の顕微鏡専門店として営業してきた．しかし，作今のご時世では，顕微鏡の需要はひと頃のような勢いはなく，営業の先行きが見えないという．一郎氏に「分類学の先生方でも，近頃は顕微鏡をあまり使わないのでは ?...」と言われ，「そう言われればそうかな ...」と反省した．最近の図鑑類には，「顕微鏡的」な画像を売りにするものが多いが，それらは顕微鏡によるものではなく，はるかに安価で手軽で，しかも大した熟練を要しない電子機器によるものである．フィルムカメラは，フィルムが廃れてもカメラの方は生き残れたが，顕微鏡の方は，そのメカや操作の複雑さが，少なくとも低倍率の領域では，コストの安い電子的手法にとって代わられつつあるのだろう．

先代は営業のかたわら，顕微鏡の収集者としても知られており，一郎氏もこれを引き継いで，引き取りを希望されれば，すべて受け入れることにしてきたとのことである．これ迄に，そのコレクションのほんの一部が公開展示されたことはあるが，その全量は浜野家の半分以上を占めていて，1000 台を超える貴重なコレクションの維持管理は，個人では到底できるものではなく，浜野氏は引き取り先を求めて苦慮しておられた．このたび，東京大学総合研究博物館が受け入れることとなり，自他共にひと先ず胸をなでおろした．

著者は工業写真家で，顕微鏡写真や結晶の映像をデザインに取り込むという，新分野の開拓者として知られる．2007 年以来，浜野コレクションの撮影を続けており，このたび 1940 年以前に製作された各種の顕微鏡について，本書にまとめたが，これらは浜野コレクションのごく一部に過ぎないという．

レーウェンフックの最初の顕微鏡（レプリカ）に始まり，一頁に一点ずつ，それも頁いっぱいという豪華な映像で，メカの美しさを満喫できる．

その代わり説明はごくアッサリしていて，これを補うために119頁以降に詳しい解説がある．小さい物を見るという目的に始まり，レンズ系の発達と共に，ステージ，コンデンサー，偏光，照明，計測などの装置が次々と改良，附加されてゆくことがわかる．携帯顕微鏡や供覧顕微鏡も，ずい分早くから作られている．表紙裏には，顕微鏡を扱った切手が並んでいる．見飽きることのない「読み物」で，続編を熱望する．

コレクションの引取先が決まったからといって，それで安心というわけではない．標本というものは何によらず，ただしまっておけば風化が進み，この本で輝いていた光沢は失われ，レンズにはカビが生えるし，ハンドルのグリースは固結する．経常的な「手入れ」が必要であるが，スペースの確保はできても，メンテナンスの予算をそれに伴って確保することはむつかしい．次巻のアルバムでは，本書の輝きは維持されるだろうか？

（金井弘夫 H. KANAI）

□田中啓幾：**落葉樹の葉（山渓ハンディ図鑑 12）** 205 × 155 mm. 447 pp. 2008. 山と渓谷社. ¥3,000＋税. ISBN 978-4-635-07084-9.

落葉広葉樹の葉の「拓本」集で，416種類の裏面のパタンが実物大で示されている．種類にもよるが，葉脈の細かい走り方や，蜜腺や細毛まで表現されている．なぜ落葉樹に限るのかというと，落葉樹の葉は薄手で，葉脈や表面模様の細部が鮮明に表現されるのに対して，常緑樹の葉は肉厚で，葉脈が組織内に埋没してしまって，細部が記録できないためであるという．作り方は，実物の葉の裏面にインクや絵の具を塗って，その形状を紙に転写したもので，「拓本」と同じであるとのこと．葉の輪郭はもちろんのこと，細脈の走り方や，毛や腺点の様子まで，ウッカリすると（しないでも）見過ごしてしまう特徴が見てとれる．

「拓本」とカッコを付けた理由は，本書で採用された手法が，拓本とは異なるからである．辞典によれば，拓本とは，転写したい面に紙を水張りし，その上から墨のついたタンポでたたいて，彫られた文字や画面を写し取る手法である．この手法によれば，文字や画面は実物と同じ向きに転写されるが，本書に書かれた方法では，転写結果は左右が逆向きになる．本書の手法は印刷そのもので，拓本の手法を適用しても，本書のような鮮明な画像は得られないだろう．たとえ左右が逆になったとしても，本書の目的からすれば一向にさしつかえないのだから，「拓本」という単語は使わない方がよい．

こういう「拓本」は40年ほど昔，植物分野ではないが，一時流行したことがある．墓石に直接墨汁を塗って，白紙をかぶせて撫でるという乱暴な手法で，しかも同好会方式で，何人もが一緒になって，堂々と墓石荒らしをしているのを何度も見た．ちょうどその頃，アーノルド植物園に行ったら，片隅に開拓時代の古い墓石があり，そばに「No rubbing」と立て札があって，世界的流行ぶりに苦笑した．著者には申し訳ないが，チャンスなので書かしていただく．

本書が葉の図鑑として異色のものであり，観察や同定の助けになるだろうことは言うまでもない．その他の用途として，デザイン集としての利用があるだろう．紙や布の地模様として，従来さまざまな葉形が見られるが，特定の植物を頭に置いたパタンは少ない．植物の葉というものは，かなりいい加減に描いても，皆さんソレと認識してくれるけれど，こういうお手本を参照すれば，もっと様々な形や組み合わせを作れるだろう．だから更に工夫して，常緑葉や草本にも手を広げてもらいたい．

一方，葉形の比較研究で対称性を扱うときには，本書のパタンが裏返しであることを認識しておく必要がある．「裏から見ても表から見ても，輪郭は同じではないか ...」という主張は，受け入れがたい．カバーに隠れて見えないけれど，英文表題の綴りに誤りがあると思う．こういうことは，出版社側が注意していてほしい．

（金井弘夫 H. KANAI）

90巻1号 正誤 (2015)　　Errata in Vol. 90 No. 1 (2015)

ページ (Page)	カラム (Column)	行 (Line)	誤 (For)	正 (Read)
54	Japanese abst. title Japanese abst., left	↓1	ノウゼンハレン科	ノウゼンカズラ科